

保育士等を対象とした「こども家庭ソーシャルワーカー」に関する意識調査からの検討(1)

— アンケート調査の質的研究の分析から —

○ 九州ルーテル学院大学 氏名 永野典詞 (006885)

立花 直樹 (関西学院短期大学・007093) 灰谷和代 (静岡福祉大学・008219) 葛谷 潔昭 (豊橋創造大学短期大学部・009497) 川英友 (静岡英和学院大学・009507) 佐藤 昭洋 (東洋大学・008999)

キーワード: こども家庭ソーシャルワーカー・保育士・子育て支援

1. 研究目的

本研究は、2023（令和5）年3月に厚生労働省子ども家庭福祉の認定資格の取得に係る研修等に関する検討会の「研修検討会とりまとめ」によって、さらに明確になった「現任者ルート」の研修課程や「こども家庭ソーシャルワーカー」について、保育士等を対象としたこども家庭ソーシャルワーカーに関するアンケート調査（以下、「アンケート調査」という。）による意識や関心度の調査を実施して、現状を明らかにし、今後の保育士・社会福祉士の各養成校の課題や役割を検討することを目的とする。なお、本研究はアンケート調査の自由記述の部分を佐藤の質的分析法を参考（佐藤、2008、2020）に分析した。

2. 研究の視点および方法

A 県内の現任者ルートの「保育所保育士ルート」に該当する保育所・認定こども園（約722か所）を本研究対象とした。「こども家庭ソーシャルワーカー」（以下、「新資格」という。）に関する保育所保育士ルートの説明資料、「新資格」に関するアンケート調査項目を郵送後に Google forms を用いたアンケート調査を実施した。

3. 倫理的配慮

静岡福祉大学研究計画倫理審査の承認（承認番号 SUW23-11）を得てから調査を開始している。本報告に関連し、開示すべき COI 関係にある企業等はない。

4. 研究結果

アンケート調査を実施した結果、75件（回収率10.4%）の回答があった。回答者の所属は、保育所41件（54.7%）、幼保連携型認定こども園31件（41.3%）、保育所型認定こども園3件（0.4%）であった。

問1 新資格を取得したいか（テキストデータ 39件）

＜保護者の相談の機会＞＜困難家庭への支援＞＜自身の自己研鑽＞＜学びの深まり＞＜家庭のあり方からの必要性＞＜資格取得の必要性＞＜資格取得の困難性＞＜保育現場の多忙による資格取得の困難＞＜資格の認知度の不透明性＞の8つのコードに分類された。次に、カテゴリーで分類し【対象者の支援】【自身のキャリアアップ】【社会的要請】【資格取得の困難性】の4つに分類された。

問2 新資格の養成について、わからないこと等（テキストデータ 18件）

＜研修時間の長さ＞＜研修内容の保育士養成課程との重複＞＜研修内容が不明瞭＞＜資格内容の不明瞭＞＜保育現場の実情＞の5つのコードに分類された。次に、カテゴリー

に分類し【研修内容】【情報提供の課題】【現場の実情】の3つに分類された。

問3 独自に保護者支援や子育て支援に取り組んでいること（テキストデータ20件）

＜おたよりを使った情報提供＞＜写真を使った情報提供＞＜勉強会を通じた教育＞＜保育活動への参加＞＜専門職の配置＞＜給食費の無償化＞＜園庭開放＞＜未就園児向けイベントの開催＞＜面談時の相談＞＜家庭訪問時の相談＞＜子育て相談会での相談＞＜専門機関との連携＞＜教職員での情報共有＞の13のコードに分類された。次に、カテゴリで分類し【教育・情報提供】【職員配置】【経済的支援】【社会資源の提供】【相談援助】【仲介・連携】の6つに分類された。

問4 保育現場で苦慮している保護者支援・子育て支援（テキストデータ27件）

＜人員の不足＞＜時間の不足＞＜研修機会の不足＞＜伝え方の難しさ＞＜保護者の理解の得にくさ＞＜外国籍の保護者とのコミュニケーションの難しさ＞＜専門機関との連携＞＜支援対象の増加＞＜保護者意識の変化＞＜家庭環境の変化＞の10のコードに分類された。次に、カテゴリで分類し【教育・情報提供】【管理運営・職員配置】【仲介・連携】の3つに分類された。

問5 独自に取り組む予定の「保護者支援や子育て支援」（テキストデータ7件）

＜子育てに関する情報提供＞＜保育活動に関する情報提供＞＜専門職の配置＞＜保育者の専門性向上＞＜自治体との連携＞の5つのコードに分類された。次に、カテゴリで分類し【教育・情報提供】【管理運営・職員配置】【仲介・連携】の3つに分類された。

問6 こども家庭ソーシャルワーカーの役割として期待したいこと（テキストデータ24件）

＜情報発信のお願い＞＜現場の役割分担について＞＜保育現場における専門家の配置の未整備＞＜新たな資格についての議論よりも教育・保育の体制整備を優先すべき＞＜困難を抱える家庭への対応と、現場の負担の軽減への期待＞＜アンケートの記述方法に関して＞の6つのコードに分類された。次に、カテゴリで分類し【情報発信への期待】【保育現場における専門職の体制について】【新資格導入に関する議論への疑問】【こども家庭ソーシャルワーカーの役割への期待】【アンケートへの意見】の5つに分類された。

5. 考察

今後の保育士・社会福祉養成校の課題や役割として、以下に3点を提案したい。1点目が、保育所・認定こども園等（以下、「保育施設」という。）と学生が家庭支援におけるソーシャルワークの知識と技術を用いた支援の重要性を再認識するようにはたらきかける必要がある。2点目は、保育施設、子ども家庭支援に親和性のあるソーシャルワークを研修等で提供する。3点目は、保育施設からの要請に応えたりカレント教育の実施である。

*本研究は、静岡福祉大学令和5年度特別研究費（代表：灰谷和代）を受けて実施したものであり、「保育士等を対象とした『こども家庭ソーシャルワーカー』に関する意識調査からの検討」の研究成果の一部である。本研究の研究協力者：竹下徹（周南公立大学）牛島豊広（周南公立大学）香崎智郁代（九州ルーテル学院大学）